

Let's Read 1

A big, old tree stands by a road near the city of Hiroshima.

広島市の近くの道のそばに大きくて古い木が立っています。

Through the years, it has seen many things.

何年もの間、たくさんの物事を見てきました。

One summer night, the tree heard a lullaby.

ある夏の夜、その木は子守歌を耳にしました。

A mother was singing to her little girl under the tree.

その木の下で、1人の母親が小さな娘に歌っていたのです。

They looked happy, and the song sounded sweet.

2人は幸せそうで、その歌は心地よく聞こえました。

But the tree remembered something sad.

しかし、その木はある悲しいことを思い出しました。

“Yes. It was some eighty years ago.

そうだ。あれは80年くらい前のことだった。

I heard a lullaby that night, too.”

あの夜も私は子守歌を聞いたんだ。

On the morning of that day, a big bomb fell on the city of Hiroshima.

あの日の朝、大きな爆弾が広島市に落ちました。

Many people lost their lives, and many others were injured.

多くの人が命を落とし、ほかにも多くの人が負傷しました。

They had burns all over their bodies.

彼らは全身にやけどを負っていました。

I was very sad when I saw those people.

そうした人たちを見て、私はとても悲しかったです。

It was a very hot day.

その日はとても暑い日でした。

Some of the people fell down near me.

何人かの人々が私の近くで倒れました。

I said to them, “Come and rest in my shade. You’ll be all right soon.”

私は彼らに「私の陰に来て休みなさい。すぐによくなりますよ。」と言いました。

Night came. Some people were already dead.

夜になりました。すでに死んでしまった人もいました。

I heard a weak voice. It was a lullaby.

私はかすかな声を耳にしました。それは子守歌でした。

A young girl was singing to a little boy.

1人の若い少女が小さな男の子に歌っていました。

“Mommy! Mommy!” the boy cried.

「お母ちゃん！お母ちゃん！」と男の子は泣きました。

“Don’t cry,” the girl said. “Mommy is here.”

「泣かないで」と少女は言いました。「お母ちゃんはここにいるよ」

Then she began to sing again.

そして彼女はまた歌い始めました。

She was very weak, but she tried to be a mother to the
poor little boy.

彼女はとても弱っていましたが、そのかわいそうな小さな男の子の母親になろうとしました。

She held him in her arms like a real mother.

彼女は本当の母親のように男の子を抱きしめました。

“Mommy,” the boy was still crying.

「お母ちゃん」と男の子はなおも泣いていました。

“Be a good boy,” said the girl. “You’ll be all right.”

「いい子にしてね」と少女は言いました。「大丈夫だから」

She held the boy more tightly and began to sing again.

彼女は男の子をさらにしっかりと抱きしめ、また歌い始めました。

After a while, the boy stopped crying and quietly died.

しばらくして、男の子は泣きやみ、そして静かに息を引き取りました。

But the little mother did not stop singing.

しかしその小さな母親は歌うのをやめませんでした。

It was a sad lullaby.

それは悲しい子守歌でした。

The girl’s voice became weaker and weaker.

少女の声はますます弱くなっていきました。

Morning came and the sun rose, but the girl never
moved again.

朝が来て日が昇りましたが少女が再び動くことは決してありませんでした。